

(十一)

扱て間も無くお父さんお母さんはお家に歸りました。

待兼て居たポピー君、早速門の所までお出迎へしますと、

「あい、よくお留守をしてお呉れだね、御褒美のお土産を買つて來ましたよ。」

と、阿母さんはイソ／＼馬車を降りて、大きな袋をポピー君に渡しました。」

「ポピー、留守に誰も來なかつたか、お前此の豚の子を餘所の女の子に呉れたらうね。」

と、お父さんに言はれて氣の着いたポピ



「君、オヤ何うして那の子豚をお父さんが持つて居るのだらうと不思議に思ひながら、先刻可哀相な女の子が来た事、其の子豚を呉れて遣つた事、其後で悪者夫婦が押寄せて来た事など、悉しくお話ししますと、」

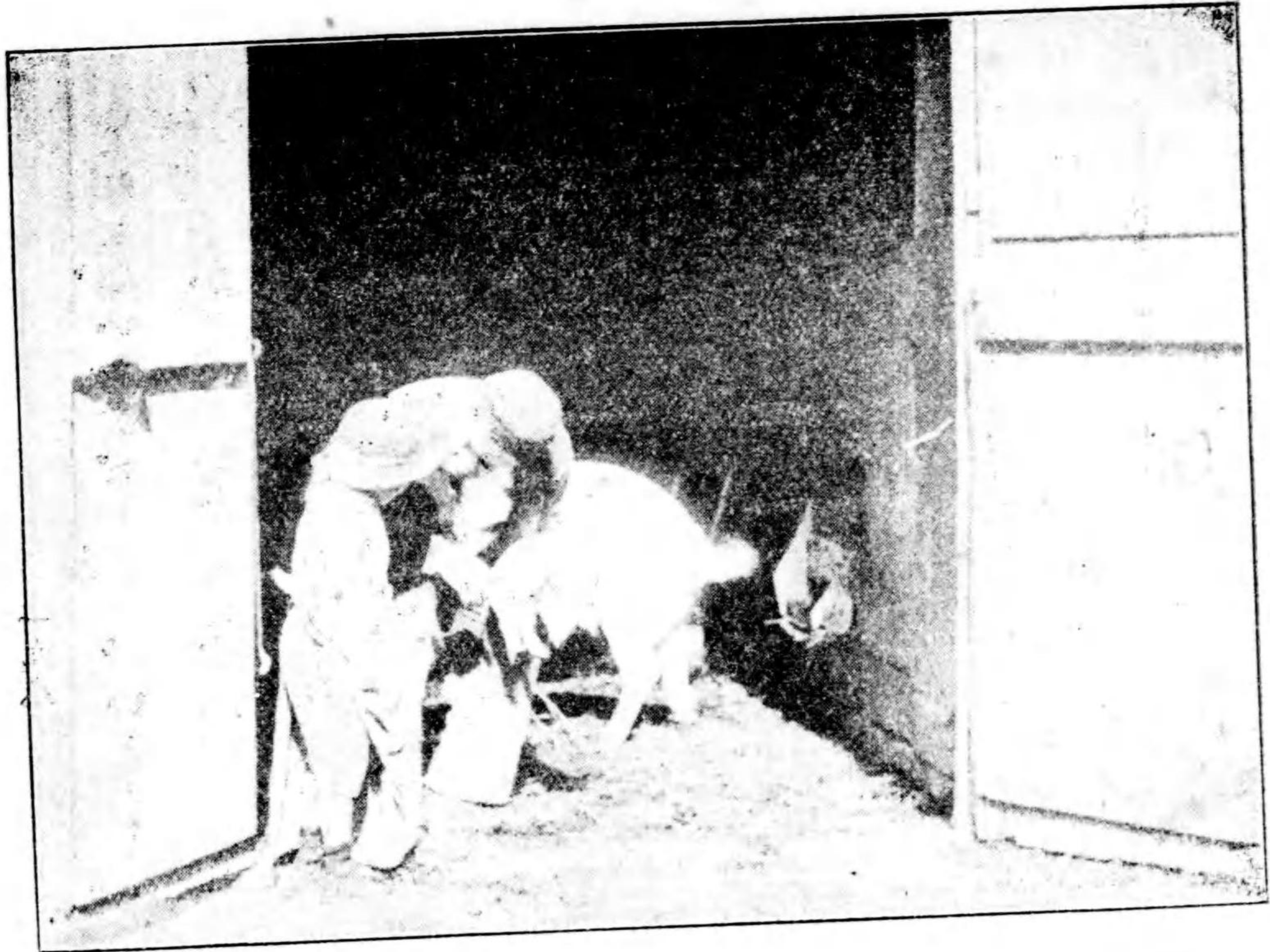
「おい、それぢや其の悪者夫婦は屹度女の子の親達に違ひ無い。子供一人と侮つて来たのだらう。それにしても可哀相な其の女の子だ。よし、之から行つて悪者夫婦に逢つた上、都谷に依つたら其の女の子を我家へ引取つて遣らう。」

と、お父様は大急ぎで先刻の所へ行つて



見ますと、女の子は勿論、所帯道具を積込んだ車の、影も形もありませんでした。扱は悪者夫婦は、ボビー君に脅かされて此地を立退いたのかと、其晩は親子三人、女の子の噂に夜を更かしましたが、翌る朝となりまして、お父さんはボビー君を豚小屋に連れて行き、昨日に引更へて元氣附いて居る豚の子を抱きあげながら、

「それ御覽、此通り威勢が好く成つたらう。これを見ても、幼い時に親を離れた兒は實に不幸なものだよ。」
と、教へました。」



これを聞いたポピー君、いよく那
の女の子が可哀相でなりません。

「早く此の「雪」が大きく成ればいな
ア。」と、豚の子が日に増して丸々と肥
て行くのを見ながら、女の子が受取りに
来る日を毎日待つて居りましたとさ。

（おしまひ）

ポピー君の嘸しは未だく澤山
あります、それから又たポピー君と
は兄弟分のワイリー君の悪戯も近
い内にお目にかけます（編者）

東京市神田區錦町三丁目九番地

編輯者兼 發行者 鈴木種次郎

大阪市東區北渡邊町八十九番地

發行者 杉本 要

東京市京橋區新富町五丁目九番地

印刷者 鷺見知枝麿

正金價 二十五錢

不許複製

東京市日本橋區下槇町十二番地

トモエ屋書店

電話本局三三二〇番
振替東京六四三五番

大阪市東區北渡邊町八十九番屋敷

梁江堂書店

電話本局二七四五番
振替東京二八二三番

大正 大正
元 元
年 年
十 十
二 二
月 月
十 十
五 五
九 九
日 日
印 印
刷 刷
行 行

發行

所

所

活動文庫目錄

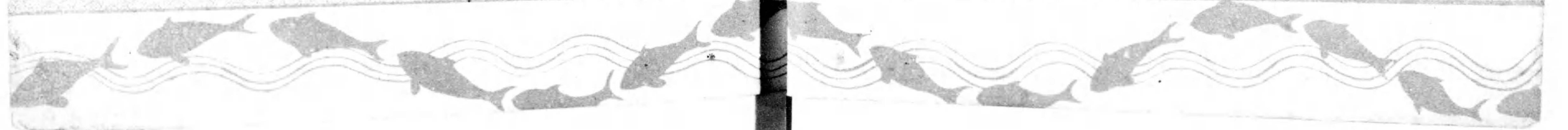
- (1) 正劇 ボビ 集 マ 全
- (2) お伽劇 ボビ 集 マ 全
- (3) 史劇 南北 興國の歌 全
- (4) 悲劇 親の罪 全
- (5) 喜劇 マックス君 全

(以下續刊)

各地大賣捌所

全	全	全	全	全	全	全	全	全	東京
勉強堂	修文館	明文館	至誠堂	文榮閣	東海堂	北隆館	六合館	東京堂	東京
大連	京城	札幌	久米	廣嶋	神戶	大阪	全	京都	名古屋
坂大號屋	日韓書房	富貴堂	金文堂	積善館	日進堂	盛文館	寶文館	東枝書房	星野書店

270
578



終

